

令和5年度小平市立花小金井小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、都、全国平均を上回っている。誤答数2～3問の層の割合が高く、全体的に習熟の度合いが高い。問題形式では記述式の正答率が高い。都・全国では記述式の問題では無回答率が高い傾向があるが、本校の無回答率は低い。

課題

目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかをみる問題については、正答率が低い傾向にあり、無回答率も高かった。図示されている項目については情報を見つけられていたが、文章で示された内容については読み取りが不十分である。

学校で取り組む具体的な改善策

文章を読んで自分の考えをまとめる際には、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成させるようにする。自分の考えの根拠が明確になるように意識的に教材文に立ち返らせる。読み取った登場人物の気持や筆者の伝えたいことを書いたり、友達と伝え合ったりする活動を多く設定する。

【算数】

状況の分析

平均正答率は、都、全国平均を上回っている。また、誤答4～6の中間層の割合が高く、正答数8問以下の下位層が少ない。知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点に関しても全国平均より約8ポイント正答率が高い。

課題

数と計算の「2位数+1位数の筆算において各段階の商の意味を説明する問題」については正答率が都・全国平均を下回っている。また、図形の性質や面積を求めるのに必要な辺や高さの長さについての知識・技能を問う問題では正答率が都平均を下回っている。

学校で取り組む具体的な改善策

習熟度別指導で各領域の学習の定着の様子を把握し、除法の筆算においても他の学習内容と関連付けて、計算の仕方について捉えなおすように、必要に応じて個別の補充課題に取り組ませる。

自分の考えを伝えるのに苦手意識をもっている様子や、問題の解き方を説明したり、他の解き方を考えたりすることに対して意欲的でない様子が見られるので、自分に自信をもたせる指導と同時に考えの伝え方のモデルを示し、苦手意識を徐々に克服できるようにする。

【質問紙】**状況の分析****課題**

全体的に生活習慣や学習に関して肯定的な回答をしている児童が多い。放課後や週末は勉強、塾、習い事等をして過ごす児童が多い。また、5年生までに受けた授業の内容を生かして自分の考えをもち、工夫して発表し合い、次の学習につなげている児童が都や全国の実態と比べて10ポイント高い。

学習意欲は高く、家庭に本を100冊以上保有している家庭が都・全国平均より多いが、「物語を読むときに内容をイメージし、表現に着目しているか」については肯定的な回答が都・全国の平均並みとなっている。「将来、積極的に英語を使う生活や職業を希望しているか」についても都平均より5ポイント下回っている。

学校で取り組む具体的な改善策

生活習慣が安定し、児童の学習意欲が高く、学習に関わる基盤が整っているので、さらにその上に確かな学びが構築されるように教育活動を充実させていく。特に、国語、算数、英語の学習が好きだと回答しなかった児童も、学習は大切だと回答していることから、児童の期待に応え、主体的に学べる課題設定や授業展開を提供できるようにする。外国語の学習では、体験学習を取り入れてキャリア教育の充実を図り、児童が将来に目標をもって学べるような機会をもてるようにする。

国語の授業だけではなく、日頃から読書ができる環境を設定し、登場人物や場面の様子について内容をイメージしながら読めるように読書カードなどを活用して指導していく。